

# だるまかれし

作・モスクワカヌ

## 【登場人物】

### ■ある夫婦（1948年頃）

- ・トキコ
- ・ワシオ
- ・手足を失った夫の妻
- ・傷痍軍人

\*このパートのフォーマットは、江戸川乱歩作の「芋虫」から拝借している。  
ただし人物の心理や細かい状況は台本独自のものである。

### ■恋人たち（2016年頃）

- ・アンナ
- ・レフ
- ・シリアル・キラー
- ・アンナの恋人

### ■ワタシのはなし（2016年頃）

- ・ワタシ
- ・発達障害者

『』内の文字は台詞ではなく、映像で映し出される。

## 一場 プロローグ

駅のホーム。

電車のホームで流れる「まもなく・・・番線に電車がまいります。白線の内側に下がってお待ちください。」というアナウンスが流れる。

ワタシが登場。

乳母車、もしくは車椅子に夫を乗せたトキコがハミングをしながら登場。

夫は手足のないだるま男である。

アンナが登場。

ホームに電車がくる。

アンナが誰かを線路に突き落とそうとするかのように、手を伸ばす。

トキコが夫をおいて線路に飛び込む。

見えない電車とトキコの衝突の瞬間を、ワタシとアンナが見る。

ワタシは座り込み、膝を抱えて小さくなり、耳を塞ぐ。この「だるまの姿勢」を、劇中でワタシはたびたびとる。

## 二場 ワタシ

診察室。

医者とワタシの会話。

『』内の医者のセリフはすべて映写される文字である。

医者 『診断結果をお話する前に、言っておきたいことがあります。』

ワタシ はい。

医者 『こういう検査の結果というものは、あくまで一つの目安であって、』

『けして個人の性質の全てを表すものではありません。』

『そういう人が社会生活をおくれないわけじゃないですし』

『診断で何かが変わるわけでもありません』

『だからどんな結果であれ、あんまり落ち込む必要とかないですよ。』

私 先生。

医者 『はい』

私 それ、もう結果言ってます。

医者 『うん。まあね。アウトかセーフで言ったらアウトだったんだけどね。』

私 アウト。

医者 『でも、現代人なんてみんな病気だから。』

私 『最近じゃ道端に落ちてる人間まで、全員病気みたいなもんだから。』  
先生。

医者 『はい。』

私 (真剣に) 人間って道端におちてましたっけ？

医者 『……例えばから。』

私 (安心して) そうですよね。

医者 『そういうところかな。』

私 『……』

医者 『アスペルガー症候群』

私 『……』

ワタシは「だるまの姿勢」をとる。

医者

『知的能力 B』

『言語能力 C』

『数理能力 A』

『書記的知覚 D』

『空間判断能力 D』

『形態知覚 D』

『運動共応 E』

『指先の器用さ E』

『手腕の器用さ E』

『現実を認知する力』

『情報を正確に知覚する能力』

『言語の意味およびそれに関連する概念を理解する能力が』

長い間。

医者

『弱い』

ワタシ

今すつごく言葉を選びましたよね、先生。

医者

『そんなに深刻な結果じゃありません』

ワタシ

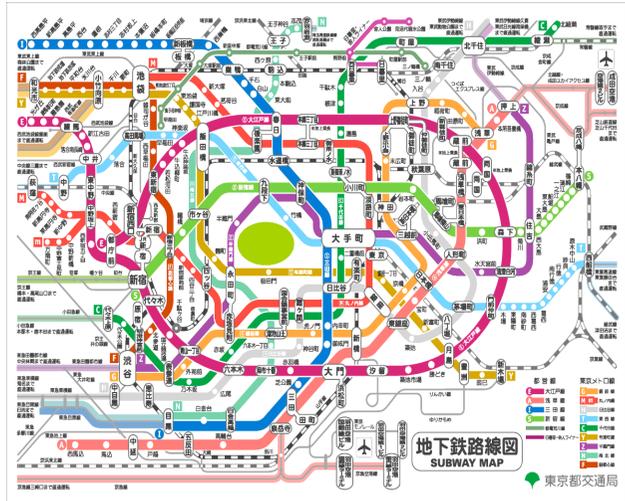
なんかこんな書類見せられても、よくわからないんですけど。

医者

『頭のなかを、鉄道の路線図で例えるなら』

『これが定型発達の方』

東京都内の「R各線と地下鉄の路線図が映写される。



医者 『これがあなた』

フィンランド（ヘルシンキ）の路線図が映写される。

《※非常にシンプルな路線図の図版。

サイトへの掲載は控えました（劇作家協会リーディング部）》

ワタシ うそお？！

医者 『例えだから』

ワタシ いやいやいや。え、これ治らないんですか？！私、治らないんですか？！

医者 『発達障害は、病気とは異なり治療できるものじゃありません』

『ですが、周囲の理解と環境の選択で』

『障害起因の様々な不具合の緩和は可能です』

ワタシ  
.....

ワタシはだるまの姿勢になり、耳を塞ぐ。

幻聴が聞こえだす。

トキコのハミングが聞こえてくる。

乳母車か車椅子に、夫を乗せたトキコが登場。

幻聴とハミングのなかで転換。